

でんぎの礎

— 探り巡れば未来が見える —

こうぶしょうこうがくりょうでんしんかと  
工部省工学寮電信科と  
ういりあむえどわーどえあ とん  
W. E. エアトン

こと

人

Department of Telegraphy in Imperial College  
of Engineering and Prof. W. E. Ayrtton



①



②

1873（明治6）年に創設された工部省工学寮電信科（現東京大学工学部電気系2学科の前身）は、我が国で最古、また世界で「電（electric）」の字を冠する最古の電気系学科といわれています。

我が国での電信科設立に際して、明治政府の招聘により来日し、初代教授に赴任したのが英国人 W. E. エアトン（William Edward Ayrtton、1847年9月14日～1908年11月8日）です。

エアトン教授は1873年から1878年まで電信科で教鞭を執り、約20名の日本人学生を指導するとともに我が国の電気工学の基礎を築きました。教え子の中には、電気学会の創設を主唱した志田林三郎、日本のエジソンと呼ばれている藤岡市助、我が国最初の国立研究所である電気試験所の初代所長を務めた浅野応輔など、錚錚たるメンバーが並んでおり、我が国電気工学発展のルーツが正にこの電信科にあります。

エアトン教授は教育のみならず研究にも熱心であり、その成果を英国の学会誌などに次々と発表しています。19世紀の偉大な物理学者マックスウェル（J. C. Maxwell）が「電気学界の重心は日本に近づけり」と彼の研究を評したという伝説が残されています。

1878年3月25日に、工部省中央電信局の落成晩餐会が工部大学校（1877年に工部寮から改称）で開催された際、エアトン教授とその教え子はわが国初の電気灯（フランス製アーク灯）を公開の場で点灯させました。「電気記念日」はこの日に由来しています。

エアトン教授は英国に帰国後も当時の英国を代表する電気学者として活躍されました。

☆顕彰先 : 東京大学工学部電気系学科（東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻）

☆所在地 : 〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

☆ホームページ : <http://www.t.u-tokyo.ac.jp/tpage/department/elec.html>

☆アクセス（最寄駅）: 東京メトロ千代田線 根津駅 徒歩8分、南北線 東大前駅 徒歩8分



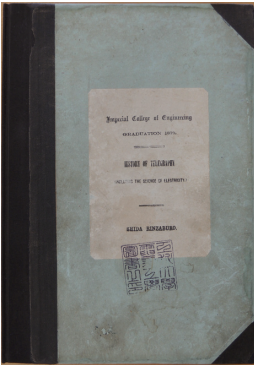
③



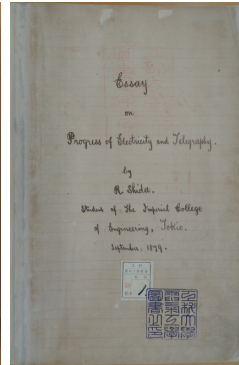
④



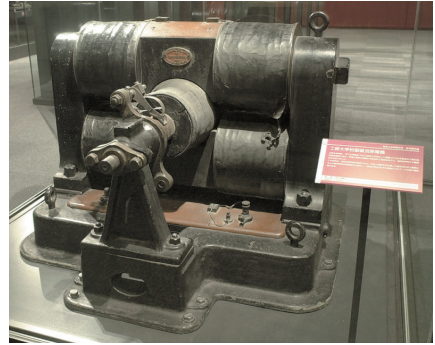
⑤



⑥a



⑥b



⑦

(写真提供：東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻・東京大学工学部電気系学科)

- ① 工部大学校（明治10年に工部省工部寮から改称）正面（明治26年6月撮影）  
「舊工部大学校史料」(工学・情報理工学図書館工1号館図書室A（社会基盤学）所蔵）より転載。
- ② エアトン教授の肖像写真（東京大学工学部電気系学科所蔵）  
東京大学電気系学科の会議室に掲げられている歴代教授肖像写真群の最初に配置されている。
- ③ エアトン教授の木製額に収められた青銅製鋳造レリーフ像（東京大学工学部電気系学科所蔵）  
エアトン教授の没後、日本の教え子達がエアトン教授の功績を讃え、明治43年11月、醸金により作成し東京帝国大学（現東京大学）電気工学科に寄贈したものである。現在は東京大学本郷キャンパス工学部2号館5階エレベーターホールに展示されている。
- ④ エアトン教授が特許を取得した静電電圧計（東京大学工学部電気系学科所蔵）
- ⑤ 明治初期に街を明るく照らしたアーケ灯（東京大学工学部電気系学科所蔵）
- ⑥ 電信科初代卒業生である志田林三郎の卒業論文の表紙と中表紙（東京大学工学部電気系学科所蔵）
- ⑦ 第3期卒業生である藤岡市助が設計し学内工作所で製作した国産初の白熱電灯用発電機（東京大学工学部電気系学科所蔵）